

# 弘法清水

常陸太田市

むかし、幡はたという所（現在の常陸太田市幡町）に一軒の貧しい家がありました。そこでは、病気で寝たきりの母親とお千代という孝行娘がふたりで暮らしていました。

ある夏の暑い日のことでした。みずばらしい姿をした旅のお坊さんが、この家の近くを通りかかりました。暑さで喉がカラカラに渴いたお坊さんは、お千代の家を訪ね、「旅の僧です。どうか、お水を少し恵んでください。」と言いました。

この年は、日照り続きで大変な水飢饉みんげんの年でした。田植えからまもなくひと月にもなろうとしているのに、雨が一滴も降らず、村人は手桶を持って毎日遠い谷間の泉まで、水を汲みに行っている有様です。その泉も水が少なくなちよろちよると流れるだけなので、いつ枯れてしまうか、皆不安に思っています。

お千代の家に来るまでに、お坊さんは何軒もの家に寄りましたがどこも水をくれませんでした。どこの家でもこの時期、やすやすと大事な水を他人にはあげられませんでした。



お千代も「大切な水だからもったいない」と思いました。しかし、あまりにも気の毒なお坊さんを見てお千代は、大きなお椀一杯の水をお坊さんにあげました。お坊さんは、たいそうおいしそうに水を飲むと、「やっ」と生き返りました。大切な水を恵んでくださったあなたに何かお礼がしたい」と言って、庭へ行き隅のほうでお経を唱えておりました。

しばらくして、手に持った杖を地面に突き立てると、不思議なことに、庭から水が湧き出てきました。水の勢いはどんどん増し、どんどん湧いて出てくるのです。驚いているお千代に、お坊さんは微笑み立ち去ってしまいました。

それ以来、この清水は日照りがどんなに続いても枯れませんでした。このお坊さんは弘法大師であったと言われており、この清水を弘法清水と呼ぶようになったのだそうです。それから、人を見た目だけで判断するのではなく皆に対して親切にしなければならぬ、と言い伝えられているのだそうです。

※掲載事項には諸記あります。



「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

**ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社**

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <https://www.ibaraki-isuzu.co.jp>